



## がん教育に携わる先生方へ

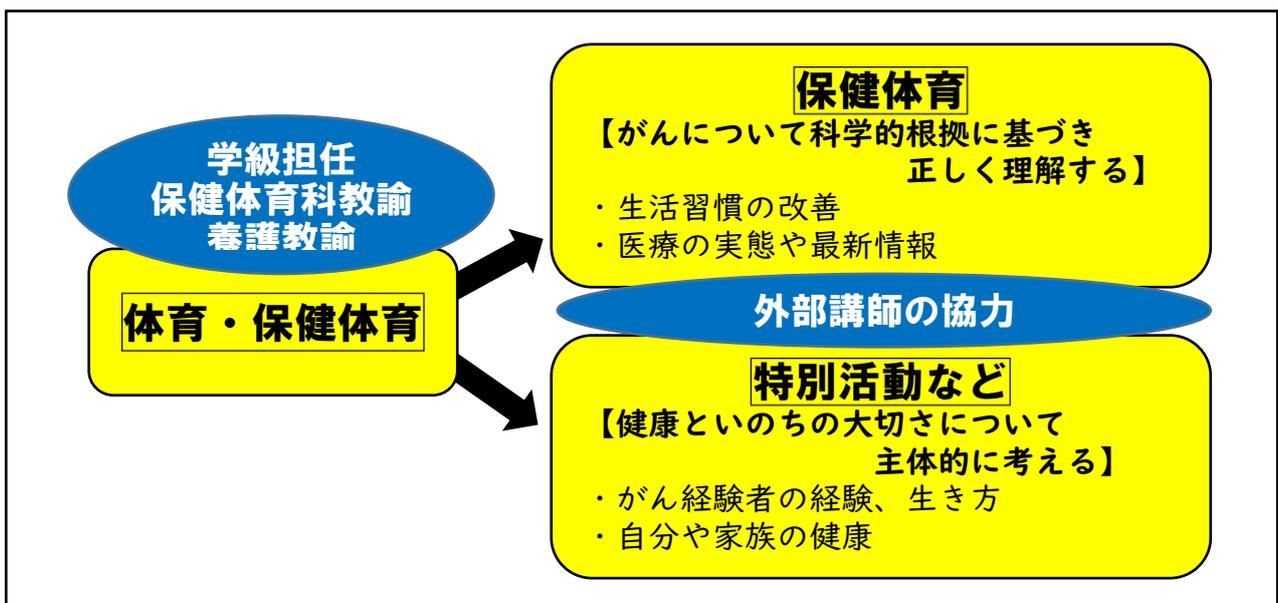
生涯のうち国民の2人に1人がなると推測されるがんは重要な課題であり、がんの知識は、健康に関する国民の基礎的素養として身に付けておくべきものとなりつつあります。健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成することを目指して実施されるものであり、がんをめぐる状況を踏まえ、学校においてがんを取り上げた教育を行うことは、健康教育を推進するうえで意義のあることです。

岐阜県教育委員会では、平成30年度に、文部科学省の「がん教育総合支援事業」を受託して以降、令和3年度までの4年間、県内中学校6校、高等学校6校で、外部講師の協力を得て行うがん教育のモデル授業開発や、がん教育指導者研修会等の研修会を開催して、がん教育を推進してきました。

この度、これまでの取組をまとめ、教師や医師・がん経験者等の外部講師など、がん教育に携わる方々の参考にしていただけるよう、文部科学省の「外部講師を用いたがん教育ガイドライン（平成28年4月）」及び「がん教育推進のための教材（令和3年3月一部改訂）」を参考に、岐阜県版の手引きを作成しました。がん教育の目標である、がんについて正しく理解し、健康といのち<sup>\*</sup>の大切さについて主体的に考えることを通して、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力を育むことができるように、子供たちに教える教師自身が、まずは『がん』及び『がん教育』について主体的に学び、子供たちの生涯にわたる健康のために取り組んでいただくことを願っています。

令和5年3月

岐阜県教育委員会 体育健康課長



※がん教育においては、がんについて学ぶことを通して、生物学的な意味での「命」と人間の尊厳を含めた「いのち」の尊さを学ぶことから、本手引きにおいては平仮名の「いのち」と表記する。